

胃のバリウム検査

放射線科副技師長 塚田 邦彦



● 3月の救急医療機関 ●

平日

電話で時間外診療の協力医療機関をお知らせします。
時間外夜間急病テレホンセンター
Tel.22-2299

休日

【内科・小児科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
市立病院
Tel.22-4311 (大町2-2)

【外科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
6日(日) 市立病院
13日(日) 滝川脳神経外科
20日(日) 滝川脳神経外科
21日(月) 市立病院
27日(日) 市立病院
※市立病院
Tel.22-4311 (大町2-2)
※滝川脳神経外科
Tel.22-0250 (西町1-2)

【歯科】

診療時間 9時～12時
6日(日) 柳第4歯科医院
Tel.22-1751 (大町2-1)
13日(日) 西尾歯科医院
Tel.23-4816 (栄町2-3)
20日(日) 武内歯科医院
Tel.23-3525 (大町2-1)
21日(月) 森歯科医院
Tel.52-2789 (砂川市西1南11)
27日(日) 杉村歯科医院
Tel.24-1354 (栄町1-7)

春も近づき、職場などで健康診断を受ける機会も増えてきます。今回は、健康診断で行われる検査の一つである胃のバリウム検査についてお話します。

この検査は、液状の造影剤であるバリウムを飲み、食道から胃にかけての様子を観察する検査です。検査を受けたことがある方もない方も、バリウムに対してあまり良い印象はないかもしれませぬ。そこで、少しでも安心して検査を受けてもらえるように、いくつかのアドバイスを加えてお話しいたします。

まず、検査の前日は夜8時までに夕食を済ませ、十分に睡眠をとります。夕食はお腹いっぱいまで食べずに、消化の良いものをとっていただく。その日の

とで、胃に食べものが残ることなく観察しやすくなります。

さて、検査当日です。初めての方は経験者から「おいしくない」「飲みづらい」「苦しい」など聞いているかもしれませんが、しかし、個人差はありますが「意外と楽だった」「思ったほどでもなかった」「平気だった」という方も多くいらっしゃいますので、考え過ぎずリラックスして検査を受けてください。

バリウムは本来、味がありませんが、少しでも飲みやすくなるために香りをつけてあります。飲む量は150cc程度で、小さい缶コーヒーより少ないです。独特な口当たりで飲みづらいと感じられるかもしれませんが、慌てずに飲んでいただく。

最初は、食道の観察のため、バリウムをひとくち口の中にためてから飲みます。次に、空っぽで縮んでいる胃を十分に伸ばして観察しやすくなるために、発泡剤(顆粒剤)をバリウムで飲んでいただきます。飲んだ直後から、炭酸ガスが出て胃を膨らませるので、炭酸飲料を飲んだときのようにゲップが出そうになります。検査中、苦しく感じるのはこのためです

が、胃がしぼんでしまうと写真がうまく撮れなくなりますので、検査終了までゲップが出ないように我慢してください。検査中はあごを引いて、鼻で呼吸すると比較的我慢しやすいと思います。

続いて、技師の指示で向きを変えたり回ったりしてもらいます。これは、胃の中をくまなく観察し、

胃壁にまんべんなくバリウムを付着させる必要があるためです。私たちもわかりやすい指示を出すように心がけていますが、わからないときは遠慮なく声をかけてください。検査時間は、バリウムの飲み始めから5〜10分程度で12枚ほど撮影して終了です。

検査後は、ゲップを早めに出すと楽になることが多いようです。また、便秘の予防のために下剤をお渡ししますが、あわせていつもより水分を多くとるように心がけてください。個人差はありますが、検査の翌日までにバリウムが排泄される方が多いようです。私たちも皆様に安心して検査を受けてもらえるように、今後もう一層努力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。